

福島第一原子力発電所 油処理装置の運転開始について

- 建屋滞留水の表面には油分が浮遊していることを確認しており、油分は汚染水処理設備への悪影響が想定されるため、1～4号機建屋等については、事前に油分の回収を行っています。
- 回収した油は3,4号機主油タンク（T/B 1階）にて、一時保管していますが、火災及び漏えいリスクの低減を目的とし、油処理装置を設置し、今後、計画的に処理を進めていくとしていた。
- 試運転の準備が整ったことから、1月20日から実油による試運転を開始する予定でしたが、実油の投入に先立ち、排ガス系のダストサンプリング装置を起動し運転していたところ、同装置が警報発生により自動停止したため、試運転の開始を見送り、調査を実施いたします。

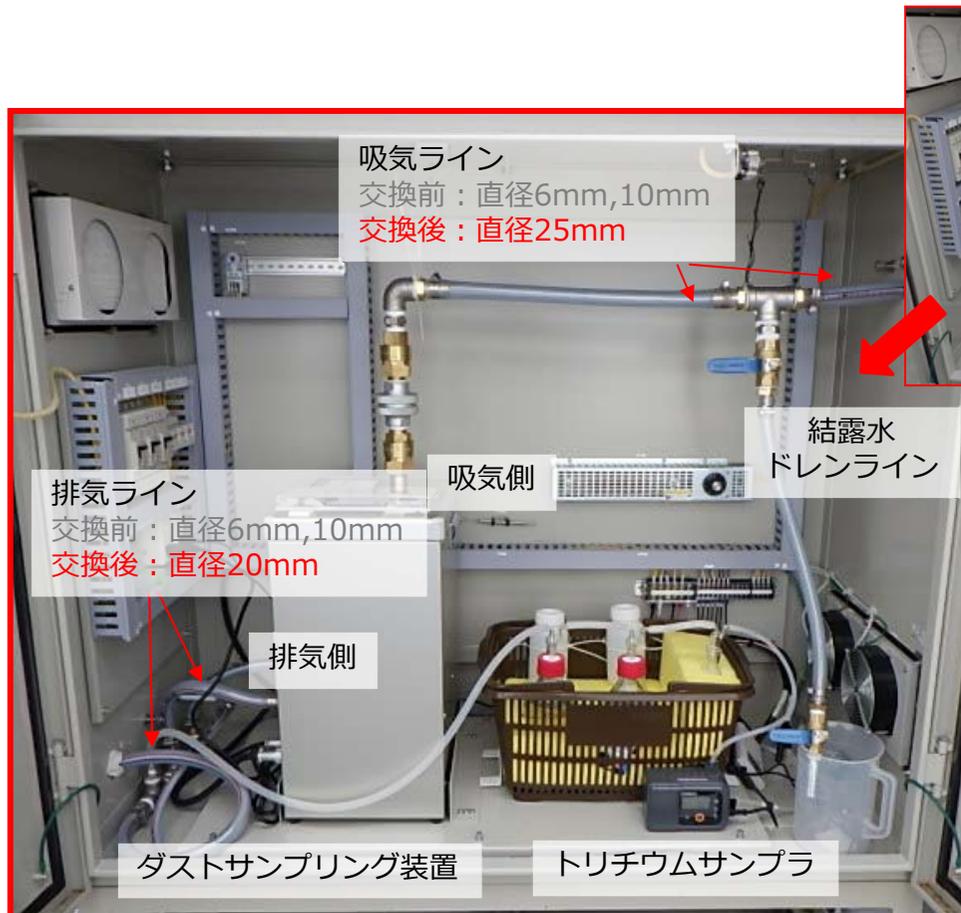
<1月20日 お知らせ済み>

- 警報発生の原因を調査したところ、油処理装置の排気ガスシステムのホースが細く、当該箇所の圧力が高まり、“ブロワ異常”の警報が発生したことを確認しました。このことから、ダストサンプリング装置に接続される吸気ラインおよび排気ラインのホースを、従来に比べて太いサイズのホースに交換しました。
- ホース交換後、ダストサンプリング装置の正常動作を確認したことから、1月27日から実油による試運転を再開していきます。

1. 吸気・排気ラインへの対策

【原因】吸気・排気ラインのホースが細く、ブローから送り出す風量に高い圧力が必要となり、ダストサンプリング装置内の送風機器（ブロー）に過度の負荷がかかったため。

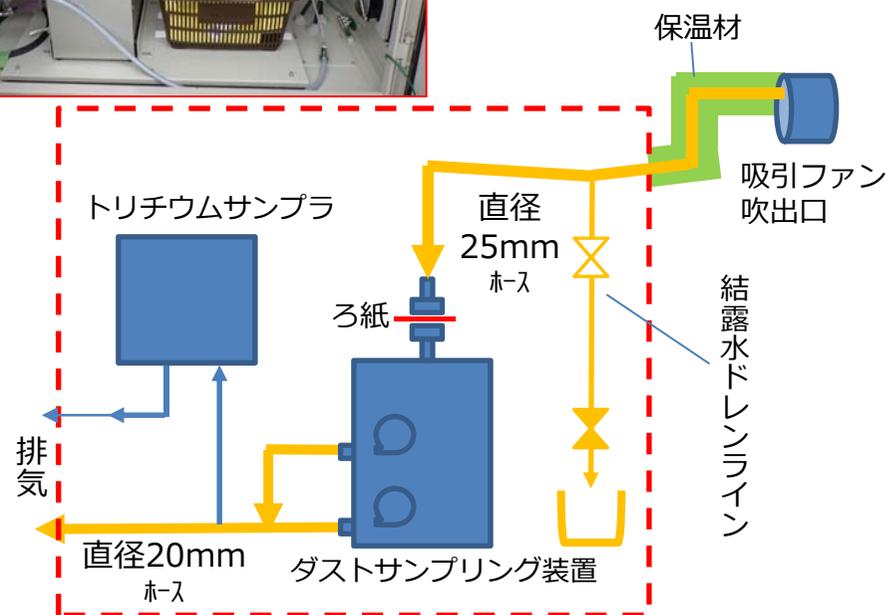
【対策】ブローへの過度な負荷を低減するため、ダストサンプリング装置に接続される吸気・排気ラインのホースを従来に比べて太いホースに交換しました。



対策実施後のサンプラ収納盤内



対策実施前



対策実施後の概略図

※油処理装置全体の排気ガス系統図は3ページ参照

参考 油処理装置 排気ガス系統図

